作成日：西暦 2026 年 8 月 27 日

研究に関するホームページ上の情報公開文書

研究課題名：卵巣予備能低下（DOR）および早発卵巣不全（POI）患者に対する自家多血小板血漿（PRP）卵巣内注入療法の有効性および安全性に関する臨床研究

本研究はまるた ART クリニックの医学研究倫理審査委員会で審査され、院長の許可を得て実施しています。

１．研究の対象

2020 年 3 月～2028 年 3 月に当院で卵巣内 PRP 注入療法を受けられた方

２．研究目的・方法・研究期間

1）研究目的

卵巣予備能低下（Diminished Ovarian Reserve: DOR）や早発卵巣不全（Premature Ovarian Insufficiency: POI）の方はゴナドトロピン（HMG/FSH）製剤を用いた卵巣刺激を行っても胞状卵胞が発育しないことが多く、難治性といわれます。近年、自家血由来の多血小板血漿（Platelet-Rich Plasma: PRP）を卵巣へ注入する再生医療（卵巣内 PRP 注入療法）が注目されています。PRP には血小板から放出される高濃度の成長因子群（PDGF, TGF-β, VEGF, EGF, IGF-1 等）が含まれており、これらが卵巣内の血管新生を促進して組織を活性化させる可能性が示されています。本研究の目的は、当院において DOR または POI と診断された不妊患者さんを対象として、卵巣内 PRP 注入療法の臨床的有効性および安全性を検証することです。この治療法が確立されることにより、これまでの排卵誘発剤やサプリメント等による治療では効果が得られなかった DOR/POI 患者さんに対し、侵襲性の低い卵巣機能の再生・改善アプローチとなることが期待されます。

2）研究方法

患者さんの血液より PRP 画分を調製し、卵巣に注入します。PRP 注入前および注入後 1-6 ヶ月に血清 AMH 値および胞状卵胞数（AFC）を測定し、卵巣予備能の改善効果を評価します。また、血清 FSH 値および E2 値の推移、ART（体外受精・顕微授精）における獲得卵子数、正常受精率、胚盤胞到達率、臨床妊娠率、生産率等を解析し、有効性を検証します。

3）研究期間

倫理委員会承認日～2028 年 3 月 31 日

３．研究に用いる試料・情報の種類

情報：治療歴、出産歴、卵巣内 PRP 注入時の診療情報、採卵時および胚移植時の診療情報、妊娠経過　等

４．外部への試料・情報の提供

外部機関への試料・情報の提供は行いません。

５．研究組織

研究責任者：まるた ART クリニック　院長　　丸田　英

６．除外の申出・お問い合わせ先

試料・情報が本研究に用いられることについて研究の対象となる方もしくはその代諾者の方にご了承いただけない場合には、研究対象から除外させていただきます。下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも、お申し出により、研究の対象となる方その他に不利益が生じることはありません。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

また、ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：
まるた ART クリニック
担当者：丸田　英
名古屋市千種区覚王山通 8-70-1 池下 ES ビル 2F・3F
電話：052-764-0010

７．利益相反

この研究は、企業等からの資金提供は受けていません。また、この研究に関連する企業と研究者等との間に、開示すべき利益相反はありません。